

いおうやま
霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

本日（19日）15時39分頃に硫黄山で噴火が発生し、火口周辺に大きな噴石¹）が飛散するのを確認しました。

鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、新たな火孔が硫黄山の南側に形成されていることを確認しました。

噴火は22時00分現在も継続しています。

【防災上の警戒事項等】

えびの高原の硫黄山から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流²）に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石¹）（火山れき³））が風に流されて降るため注意してください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1～3）

本日（19日）15時39分頃に硫黄山で噴火が発生しました。

鹿児島県の協力により、実施した上空からの観測では、新たな火孔（図1の橙線内）が硫黄山の南側に形成されていることを確認しました。また、火孔の周辺に火山灰の堆積を確認しました。

赤外熱映像装置⁴）による観測では、前回の観測（3月11日）と比べ、火孔及びその周辺で熱異常域の拡大を確認しました。

噴火は22時00分現在も継続しています。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから時速百km以上、温度は数百にも達することがあります。
- 3) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 4) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図 1 霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺) 上空からの状況

(上段: 4 月 19 日、下段: 3 月 11 日)

硫黄山の南側に本日 (4 月 19 日) の噴火で形成された火孔 (橙線内) を確認しました。また、火孔の周辺に火山灰の堆積 (白破線) を確認しました。

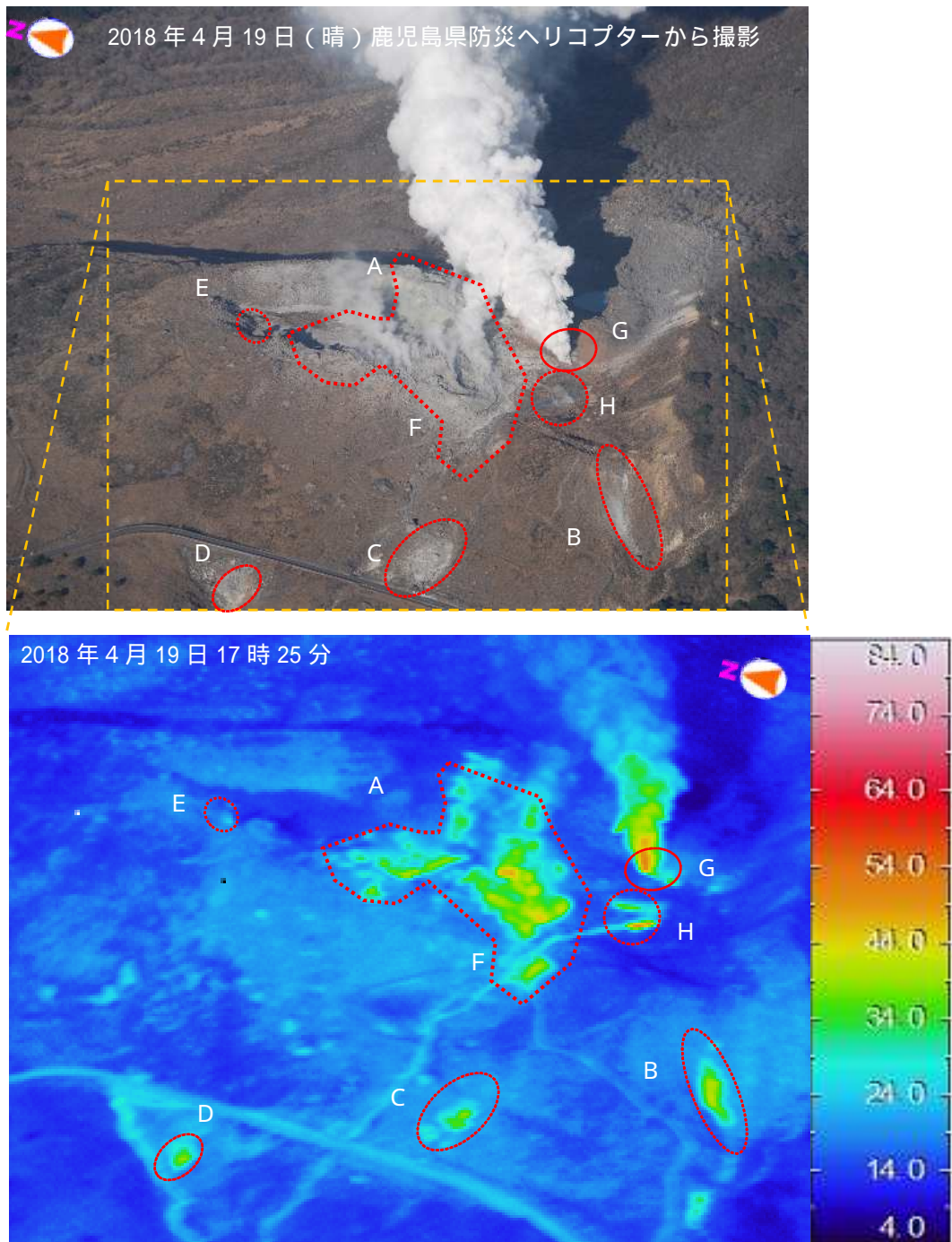


図 2 - 1 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) 上空からの状況 (4月19日)

赤外熱映像装置による観測では、前回の観測(3月11日)と比べ、火孔及びその周辺で熱異常域の拡大(G、H)を確認しました。

図中の各熱異常域A～Gは、それぞれ図3の熱異常域に対応します。

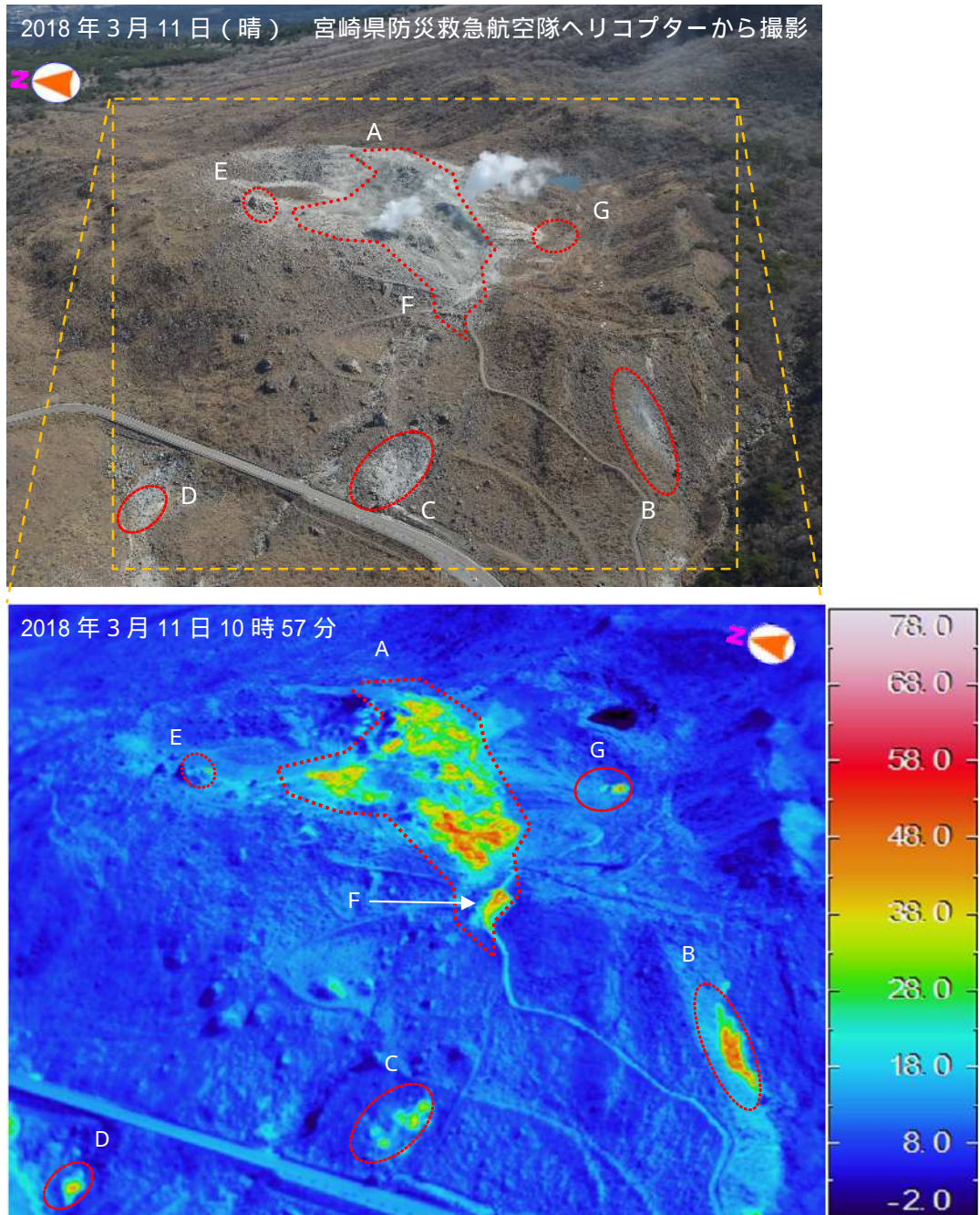


図2-2 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) 上空からの状況 (3月11日)
図中の各熱異常域A~Gは、それぞれ図3の熱異常域に対応します。

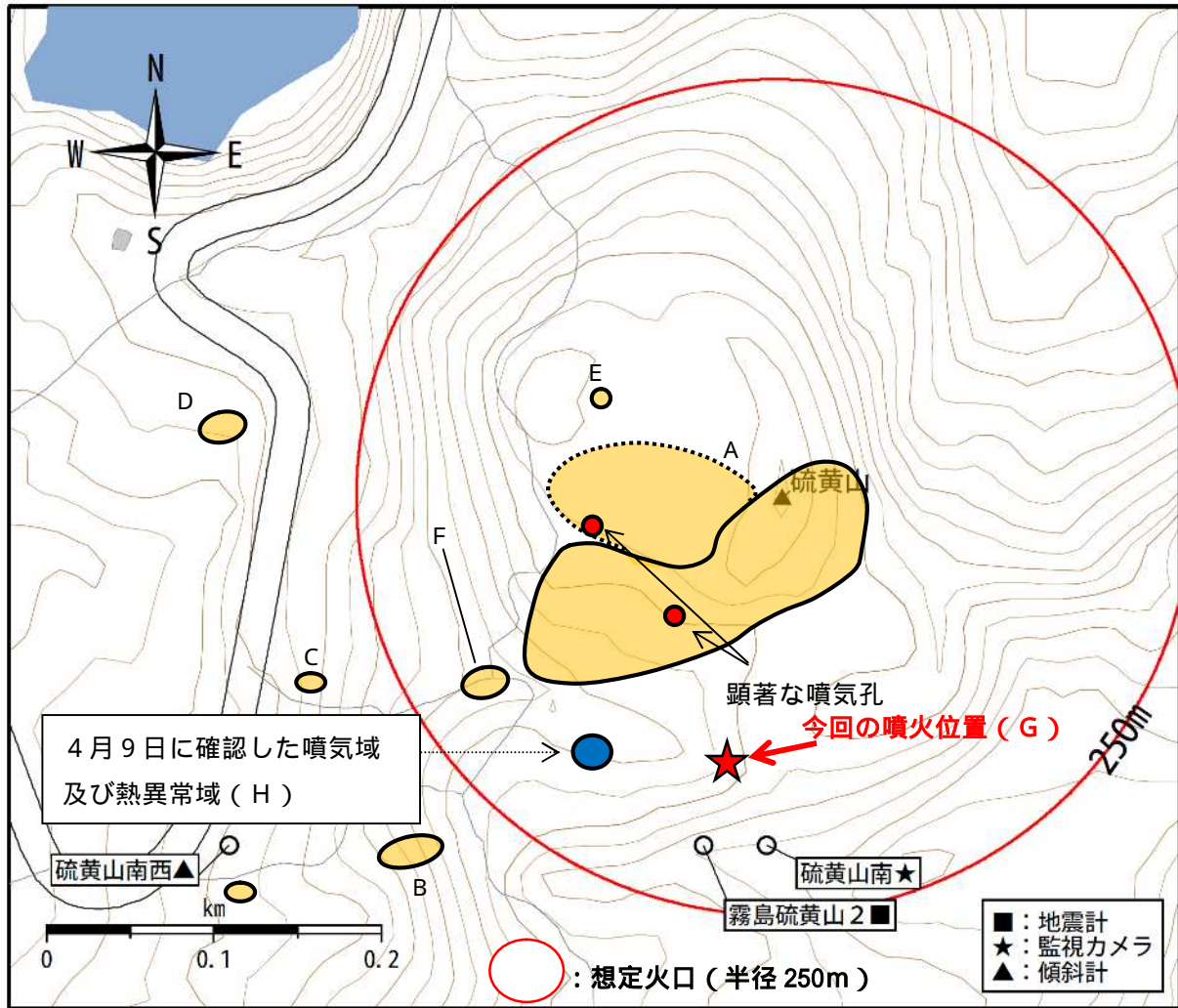


図3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火位置及び主な熱異常域

本日（19日）15時39分頃に発生した噴火の噴火位置を で示します。（橙色は主な熱異常域及び噴気域）

図中の各熱異常域A～Gは、それぞれ図2の熱異常域に対応します。